

19日、午前10時から音楽法要が勤められ、院において「金沢教区・金沢別院宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要」が厳修された。



結願日中の様子

金沢教区・金沢別院 宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌 厳修



御遠忌特別号

号外

発行所 真宗大谷派金沢別院
代表者 高乗 敬和
〒920-0854
金沢市安江町15番52号
TEL (076)261-6432
FAX (076)265-6122
年間購読料 1,200円(送料込)



その後境内に設置された舞楽台で金沢教区「澄音会」による高麗楽『納曾利』が舞われた。午後1時から藤原千佳子氏（浄秀寺）による法話があり、「初逮夜」のお勤めが高乗和と金沢別院輪番の調声で勤められた。
20日の午前6時の「初晨朝」からは大谷暢文真宗大谷派鍵役の御参修で勤められ、午前9時に稚児行列（縁儀）が執り行われた（稚児37名）。午後1時からは相馬豊氏（道因寺）による帰敬式法話、法話後に「結願逮夜」が勤められ、その後、大谷暢裕真宗大谷派門首による帰敬式が執行された（151名受式）。帰敬式に続き舞楽台では『萬歳楽』が舞われた。
21日の「結願晨朝」は御参修で勤められ、午前9時30分からは木越樹氏（光専寺）による法話が行われた。10時からは稚児行列（庭儀）が行われた（稚児230名）。稚児行列後には舞楽『陵王』が舞われ、その後「結願日中」が大谷暢裕門首の御親修、大谷暢文鍵役御参修で厳修された。
連日多くの真宗門徒が金沢別院に集まり共に宗祖を偲び、念仏を称えた。

よろこびは いつもここに
— 今、親鸞さまに出あう時 —



大谷サチカ門首夫人



大谷暢文鍵役



大谷暢裕門首（庭儀）



帰敬式 執行

151名が仏弟子として歩み出す



5月20日、大谷暢裕門首執行による「帰敬式」が行われ、151名が受式した。

式では、「剃刀の儀」(おかみそり)に続き、受式者を代表して高木邦雄氏(瑞泉寺門徒)



が法名を受け取り、その後、新谷壽久氏(瑞泉寺門徒)が「誓いの辞」を述べ、真宗の教えを依りどころとして生活することを誓った。

稚児行列

5月20日には「縁儀」、翌21日には「庭儀」によつて稚児行列が行われた。

「縁儀」では、37名の稚児とともにご家族・僧侶が、金沢真宗会館ホールから館内を練り歩き、本堂の向拝を通り、本堂に入り参拝した。

21日の「庭儀」では、230名の稚児とご家族・僧侶が、金沢別院「西門」から外へ練り歩き、金澤表参道(横安江町商店街)を通り、門首とともに山門から本堂へ入り参拝した。



舞 楽

5月19日から21日までの3日間、

境内の白洲に特設された舞楽台で金沢教区「澄音云」による舞楽が披露された。このたびの

舞楽では、19日に2人で舞う高麗楽『納會利』、20日に4人で優雅に舞う『萬歳楽』、そして21日には竜の面をつけて1人で舞う『陵王』が演じられた。



音楽法要

初速夜に先立って勤められた音楽法要

では、真宗本廟(東本願寺)の御遠忌を機

縁に作曲された法要曲を合唱団「蓮」が歌い上げた。その後、門徒・僧侶による「正信偈」、そして「南無阿弥陀仏」の念仏合唱が本堂内に響き、門徒と僧侶とともに音楽法要を勤めた。



御遠忌円成 御礼

金沢別院輪番 高 爽 敬和

このたび、門徒、寺族、有縁の方々の尊い御懇念を賜り、真宗大谷派門首御親修にて勤められた「金沢教区・金沢別院宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要」を、5月21日をもって無事円成させていただきました。

また、御遠忌法要に先立ち、数多くの讃仰事業が開催され、多くの方々にご参加いただきました。関係された皆様の主体的なおはたらきに深く感謝し、御礼を申し上げます。

2017年から2年の歳月をかけて、2019年に金沢別院本堂等修復工事が完了し、2020年に本法要をお迎えできるよう進められてきましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、延期となりました。延期を経て本年の厳修となった法要ですが、この延期によって与えられた時間は、私たちにとって大切な時間となり、改めて御遠忌について思考することとなりました。

延期となった御遠忌を勝縁として、改めて教化事業等を検討することとなり、「記念講演」や「別院のあゆみ展」「お持ち受け法話」などが展開されました。「別院のあゆみ展」では、多数の遺構が寄せられ、皆様方の別院への想いを再確認させていただきました。「お持ち受け法話」では、若手僧侶を中心に、法話と茶話会という場が設けられ、和やかな雰囲気、門徒・僧侶が共に聴聞し合う姿があり、大切にすべき仏事であると受け止めさせていただきました。

御遠忌円成をお慶びするとともに、「仏法領」として存在する、未来の金沢教区・別院を想像します。ありがとうございました。